

－令和8年5月29日から防災気象情報が新しくなりました－ 第1回：新しい防災気象情報の情報体系とその名称

令和8年5月29日から「新しい防災気象情報」の運用が始まりました。

この「新しい防災気象情報」では、避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、大雨などの災害発生危険度の高まりに応じて様々な情報を発表します。

今回から、「新しい防災気象情報」について、シリーズで解説していきます。第1回は「新しい防災気象情報の情報体系とその名称」です。

「**新しい防災気象情報**」は、

- 河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮の4つの現象について、
警戒レベルと整合した数字を付けて発表します。
- レベル4相当の情報として危険警報を新設します。

例：レベル4大雨危険警報、レベル4土砂災害危険警報など

河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮の4つの現象については、下表のように、
「警戒レベル」[※]と整合した数字をつけて発表します。

※次スライド参照

水位周知河川とその他の河川の
外水氾濫、及び内水氾濫を
対象とする。

警報等の名称に「土砂災害」と明示し、運用する。
警戒レベル3相当の発表基準にリードタイムを用いる。

警戒レベル2相当、3相当、4相当は、リードタイムを用いて発表する。

警報等に警戒レベルと整合した数字が付くことで、避難のタイミングや取るべき行動が分かりやすくなります！



ココがポイント！

対象は、洪水予報河川に指定している河川のみ。福島県は、阿武隈川上流、荒川、阿賀川、夏井川、新田川、宇多川が対象（阿武隈川は、福島県側を上流、宮城県側を下流として扱う。）。

（将来は、水位周知河川も洪水予報河川に指定して扱う予定）

大雨、土砂災害、高潮にもレベル4危険警報を発表する。

	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のかけ崩れや土石流	高潮 海水面上昇や波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの）住民がとるべき行動
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
＜警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！＞					
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル1	早期注意情報				災害への心構えを高める

「警戒レベル」とは？

災害発生の高まりに応じて、住民等がとるべき行動と、その行動を促す情報とを関連付けるものです。住民等が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、避難情報等を5段階の警戒レベルに整理しています。

警戒 レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
~~~~~ ＜警戒レベル4までに必ず避難！＞ ~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	レベル2 大雨・土砂災害・氾濫・高潮注意報 (気象庁等)
1	今後気象状況悪 化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである